

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の中で人間らしく暮らしていただけるよう支援いたします」を事業所理念とし、業務会議では意義を確認し具体的な取り組みを図っている。地域の回覧板は必ず職員全員が目を通し情報を共有できるようにしている。	事業所の理念について、朝のミーティングで唱和し職員への意識付けに取組んでいる。また会議のなかで実践と結びついているか、丁寧に検証されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入し、総会等の集会や清掃活動に職員が参加し、施設への理解を求めている。災害時避難訓練の際は消防団の方々に参加いただいたり、祭りなど地域の方々と交流している。	利用者とともにつきあいのあった地域の方々も高齢化し、つながりが変化していることが分かります。今後検討が予定されている、新たな近隣住民や保育所等との交流の実現に期待します。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者のプライバシーに配慮した上で実習生を積極的に受け入れ、人材育成に貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回自治会長・民生委員・市役所・地域包括支援センター・家族代表が参加の下、開催している。評価結果や活動内容の報告とともに参加者から質問、意見、要望を受けている。	市の担当者も参加し、前向きに事業所の課題についての話し合いが行なわれていることが、会議録等から分かります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーへ市の長寿福祉課の方に入っただいしている。会議では担当者の方へ事業所の活動報告を行い、わからないことは積極的に相談し、情報やアドバイスをいただいている。	困難な課題を抱える利用者について、担当行政課との連絡を密にとり対応がなされています。今後家族の高齢化や家族のいない方についての心配があることが分かりました。	今後心配される課題への対応について、行政への働きかけの工夫が必要です。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会を設置し「身体拘束ゼロへの手引き」をもとに内部研修を実施し、職員に「身体拘束禁止の対象となる具体的な行為」の周知徹底を図っている。外出・帰宅願望者に対しては声かけや同行して施錠することのない自由な暮らしを支援している。	手引きやマニュアルにもとづき組織的な取り組みがなされています。日々のサービス実践の検証の仕組みは整えられています。	自己チェックシートなどを活用し、振り返りを行うことを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置している。業務会議の時に内部研修を実施し虐待の防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修は実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び解約の際は利用者や家族等の抱える思いを傾聴しながら、不安や疑問を可能な限り解消できるよう、十分な説明と話し合いを行える環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会がない為家族へは運営推進会議への積極的な参加を呼びかけており、参加可能な方はその場で意見をもらっている。それ以外の方には面会時や電話での対応を行っている。	利用者との日々のコミュニケーションや家族の面会時等の機会を利用しての意見の聞き取りが、丁寧に行なわれていることが記録類により確認できました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見・要望を出してもらい、業務会議の時に全員で検討する機会を設けている。また、「連絡ノート」を設置し誰でも記入できるようにしたり、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ問いかけたり聞き出している。	職員会議や管理者との個別面談により、職員の意見や提案について丁寧に検討されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は状況を把握する為現場に出向くこともあるが、毎日密に連絡が出来る環境にある。特に職員の資格取得を支援し、取得後は個々が向上心を持って働けるよう配慮している。毎年、職員の為の健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう、勤務シフトを計画し工夫している。参加した職員は直近の業務会議で発表し、また研修レポートを作成し全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同地区にある施設と餅つきや運動会などのレクリエーションを企画し、実行し交流しており利用者も楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	落ち着いて話ができる機会を設け、必ず本人と向き合って心身の状態や本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用を開始されるまで何度かホームへ来所いただき、話し合いを重ね家族のニーズを引き出している。来所が不可能な家族には電話で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族に要望を聞き実現できるよう最善の方策を検討し提案できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者は家族の一員である」という認識を職員が共有して、一緒に生活しているという姿勢でサービスにあたっている。利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、いろいろ教えてもらう姿勢である。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の日頃の状態を報告・相談し情報交換に努めている。何か問題が発生した場合にはすぐに家族へ連絡・相談を行い支援の方向を決定し、家族に出来ることがある場合には協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方々にも面会に来てもらえるようお願いしている。家族や友人に協力してもらい、外出し馴染みのいくこともあり、馴染みの理容院に通い続けている利用者もいる。	なじみの関係者の高齢化や体調の変化により、以前のようなつきあいは難しくなっていますが、個別的に支援方策を検討していることが分かります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。また、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプラン等支援状況の情報提供を行い馴染みの職員が機会を作って訪問に行くなどしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で一人ひとりが発する言葉や表情から思いの把握に努めている。意思疎通が困難な方はご家族や関係者から情報をいただき、日頃のケアに活かせる検討している。	本人および家族の思いや意向を、担当介護支援専門員とも連携し丁寧に確認し、記録にも残していることが確認できました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、関係者等から少しずつ聞き取りをし、それを蓄積しながら本人の全体像へつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は利用者一人ひとりの生活のリズムを理解したうえで、さらに日頃の行動・動作・表情・言葉から変化を感じとり現状の把握に努めている。また、それを詳細に記録しアセスメントやモニタリングに活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・モニタリング・カンファレンスに担当職員・施設長・計画作成担当者が関わり必要があれば職員全員で意見交換し、本人・家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き介護計画に反映されるようにしている。	ケアマネジメントの過程に沿って確実に支援が展開されていることが一連の記録から分かります。特にモニタリングシートを工夫し、スタッフや家族に分かりやすくしている点は高く評価されます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し排泄等身体的状況及び日々暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録している。いつまでも全ての職員が確認出来るようにしており、勤務開始前の確認は義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや入所前の体験など柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けるよう警察との連絡体制を確保したり、民生委員との話し合いの場を設けたり、外出時の支援等ボランティアの協力もある。また、おむつ券の利用や代行申請等介護保険以外の支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医への受診を本人や家族が希望した場合は、続けて受診を支援している。それ以外の方は本人や家族の同意を得てのつはる診療所・ひろたクリニックから2週間に1回の訪問診察を受けている。	利用者や家族とも連絡をとりあいながらの対応がなされています。利用者の状況により、受診同行するなど柔軟に対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調やささいな表情の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。状態変化があれば報告し連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。入院によるダメージを防ぐ為に、医師と話をする機会を持ち、ホームとして対応可能な段階でなるべく早く退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明を行っている。また、本人や家族の意向を聞き、出来る限り希望に沿えるよう、主治医に相談をしている。	医療機関とも連携し、利用者本人・家族の意向を尊重する対応がされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年数回一斉に実技を含む勉強会を実施し訓練している。また、夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回(3月・10月)避難訓練を計画し、利用者と共にやっている。	防災への対応については、運営推進会議などでも検討されています。夜間の対応などが課題といえます。	火災や水害を想定した避難誘導のシミュレーションなど、訓練面での工夫が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時もまずは本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけたり、自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	マニュアル等の整備と、それに基づく実践を日々行なっていることが分かります。	身体拘束への取組み同様、自己チェックシートによる振返りなど、仕組みの中にあるものを活用することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。外食の際にはメニューを利用者が選ぶようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体の基本的な流れはあるが、希望に添って一人ひとり生活のペースを大切にしている。買い物や散歩等希望された場合も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みのある理容院がある方は自由に利用できるよう支援し、それ以外の方にも月1回契約している美容師さんにホームへ出張してもらい、カットや毛染めの希望に対応してもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する作業で野菜の皮むき・ごぼう削ぎ・ごますり・片付けをしていただいている。調理したものを写真に残し、閲覧用資料として役立てている。また、職員が毎食検食し記録している。季節感のある献立作りにも取り組んでいる。	準備から片付けまで、利用者と職員が一緒に食事を楽しむことに着目した取組みが行なわれています。また視覚的に分かりやすいような献立の見せ方など注目に値します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮し、野菜を中心に魚・肉等多数の食品を取り入れた食事を提供している。体重の著しい減少が見られる利用者には食事摂取状態を確認し、食事量を見直したり本人の嗜好の食べ物を負担にならない程度に出すようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた歯磨きの介助または声かけ・見守りを行っている。就寝前には義歯の洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、尿意のない利用者には時間を見計らって誘導し、利用者全員がトイレでの排泄を基本としている。職員は利用者には配慮し、一人ひとりの生活リズムや身体状態を把握し、それに応じた介助を行っている。	利用者の状態に応じた自立にむけた支援と、転倒などの危険への対応が丁寧に行なわれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録し個々の排泄パターンを把握している。十分水分摂取を行い野菜中心のメニューで食物繊維を豊富に摂取できるように工夫している。毎朝の体操等身体を動かしたり、腹部マッサージを便秘対策として行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴・夜間入浴も可能で自分で入浴できる方には自由入浴を楽しんでもらっている。くつろいでもらえるよう個別入浴を実施している。入浴を拒む方には心情に配慮した声掛けや対応を工夫している。	利用者のペースで入浴ができるよう、声かけや誘導に工夫をして働きかけていることが分かります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調や希望に合わせて休息がとれるように支援している。眠れない利用者については原因を探り生活リズムを整えるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供情報書をファイルに保存し、職員が内容を把握できるようにしている。薬袋に氏名・日付を記入し服薬時には職員が服薬管理を利用者が口に入れるまで確認している。状態変化が見られる時は、受診時に担当医に伺っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から利用者一人ひとりが力を発揮できるよう支援している。野菜作り・掃除・洗濯物たたみ・調理の下ごしらえ・草取り等楽しみながら行っている。ホーム内の季節行事・誕生日会など年間計画を立て実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や気分に応じて近所を散歩したり、近くのスーパーまで買い物へでかけたり、遠方への外出は家族や友人の協力を得ている。気候の良い日は全員で庭に出て食事やお茶を楽しんでいる。施設行事としても外出の機会を定期的に企画している。	法人全体としての遠出のドライブや近所での買物支援というように、利用者の希望や状態に応じた外出支援が行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る利用者には少額ではあるが手元に所持してもらっている。家族よりお金を預かり事業所が管理している人でも、買い物の際は自分で払っていただけるようお金を手渡すことで社会性の維持につなげている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて日常的に支援している。電話の場合は職員が用件を受け取り次ぎをしている。家族からの手紙や電話も歓迎している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に自然な光が差し込み明るく清潔感のある空間作りに取り組んでいる。適所に観葉植物や季節の草花を配したり、壁面の飾りも季節ごとに工夫している。調理室が居間と隣接し料理の匂いやまな板の音など生活感のある家庭的な雰囲気大切にしている	転倒などの危険防止や室内表示などに配慮されていることが確認できました。リビングに皆が集まりたくなるような雰囲気づくりがなされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	事故が起きないようにテーブル・椅子・ソファの配置に配慮し、利用者が自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが使いやすいよう配慮して、その人らしい居室作りをしている。目の不自由な方も自由に過ごせるよう配慮して、使いやすいよう工夫している。	利用者一人ひとりの希望や状態にあわせた居室づくりがなされています。また季節感などが味わえるような配慮も見られました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	移動空間の細部に手すりを設置し、廊下を広く取り、邪魔な物は一切置かないようにしている。		